
眠れる森

シオリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠れる森

【Nコード】

N3658L

【作者名】

シオリ

【あらすじ】

夢の中をさまようけれど、どうしてもかは本人にもわからない。

目をゆっくりと開けると、そこは森の中だった。

針葉樹林っていうのかな。

背の高い樹木が何メートルも天に向かって伸びていて、薄暗い。

今、何時ごろなんだろう。

ちょっと空気がひんやりする。

辺りは薄茶色に見えて、木は黒く見える。

なんかシックな色合いだな。

迷い込んでいるのに違いないのに、なぜか僕は落ち着いていた。

360度どこを見回しても木しかない。

さっきまでどこにいたんだっけ。

何にもわからないのに、どうして色合いを楽しんでる余裕があるんだろう、僕。

景色に飽きると、今度は自分の身なりに気がいくようになった。

落ち葉が敷き詰められた地面の上に、僕は裸足で立っていた。

やわらかくて気持ちいいけど、なんかありえない。

着ているものは色あせた黒の綿ズボンに、襟が伸びたハイネックのカットソー。

あれ、寝間着じゃん。

あ、これ、もしかして、夢なのかな。

森と僕のありえない組み合わせに、そう思うようになった。

夢なんて見るの、何年ぶりかな。

小学生の時見た、誰か知らない男の人に追いかけられる夢は怖かったな。

その後も何度か見た覚えがあるんだけど、どんな夢だったっけ・・・

悠長に考えながら、落ち葉を踏みしめて歩く。

どこまで進んでもやっぱり木しかない。

さくさく、という落ち葉の感覚を楽しみながらどこまでも歩く。

だけど急に不安になってきた。

なんで、この夢、こんなにリアルなんだろう・・・

落ち葉だって、昔こうやって裸足で誰かと遊んでいた時の感覚と一緒だし、

なんか気温も寒くなってきてない？

しかも、夢ってこんなに考えられるほど長いものではなかったよう
な・・・

もしかして僕が、夢だと思い込んでるだけ？

氷を丸呑みしてしまったように、さあっと体の中が冷えていった。

怖い。なんか怖い。

そう感じて、急に走り出した。

どこへ行っても木しかないのに。

しばらく走るとさすがに疲れてきて、ぺたっと座り込んだ。

振り返ってもどのくらい走ったかわからない。

下を向いて息を整えながら、今度は絶望感に襲われるようになる。

こんなことも昔にあった気がするな。

もっずっとこの夢のような森から抜けられないのかな。

下を向くことにも疲れて顔を上げると、またありえないことが待っていた。

女の人が立っていた。

ピンクのフリルのついたワンピースに、ワンピースに似たデザインのパンプスを履いている。

セミロングの髪をゆるくカールさせ、驚いたようにこっちを見ている。

ああ、やっぱり夢だ。

だって、その女の方は到底森にくるような格好はしていない。僕の好みだけだね。

しかもこんなにタイミングよく人が現れるなんてね。

驚いた顔してるけど、こっちだって驚いてるよ。

そんなことを考えてると、女の人はいくると向きを変えて走り出した。

まったく、アリスじゃないんだから。

でも追いかけたら、この夢覚めるんじゃないかな。

こんな疲れる夢、もうごめんだ。

「――！」

女の人に何か声をかけようと叫んだとき、辺りが真っ暗になった。

目をゆっくりと開けると、いつものベッドの上での朝だった。

窓が薄く開けっ放しだ。戸締りもしないで寝たんだけ。

なんだか寝ている間に寒い思いをしたような気がするな。

よく寝ている途中で気づいて起きなかったもんだ。

特に頬がひんやりする・・・と顔に手をあてると、両目から滴が伝っていた。

それに気がついた瞬間、視界がどんどん潤んできた。

男の部屋なのに赤系のカーテンが、朝日が当たってピンク色に見える。

なぜか急に、僕のもとから消えてしまった彼女を思い出して悲しくなつた。

e n d .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3658/>

眠れる森

2011年1月16日02時31分発行